

大牟田市立吉野小学校

1 本校のESDの特徴

本校は学校教育目標である「持続可能な社会づくりを担う、心豊かでたくましい吉野の子どもの育成」を達成するために、今年度は、「成就感を味わい、自ら進んで行動する子どもの育成」を重点目標に掲げている。自らの課題を持ち、発展的に解決策を考える思考力や他者との双方向の関わりを深める力であるコミュニケーション力、よりよい生き方を見出し実践しようとする行動力を育てていくことが重要である。

本校の校内には「ビオトープ」があり、校区南側に「白銀川」、北側に「隈川」が流れている。また、校内をはじめ白山神社や近隣に多くの桜が植樹しており、その桜を中心に地域の方々と学校の双方向のつながりを大切にした活動が活発に行われている（写真1）。

このような学習環境をもとに、本校では、よりよい吉野のまちづくり「吉野ハッピータウンプロジェクト」を学校全体の中心テーマとして、3つの領域「環境」「郷土・国際理解」「いのち・人権」（SDG3, 11, 13, 14, 15, 17等）から、自己の生き方としての系統化を図りESDを推進している。



写真1 桜の押し花づくり

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

(1) 本校のESDのテーマ

「吉野ハッピータウンプロジェクト」～みんなが安心 みんなが笑顔で暮らすことができる社会を目指して～

(2) 本年度の重点目標

- ESDカレンダーを活用し、必要に応じて付加や修正を行う。単元計画（ストーリーマップ）を充実させる。
- 課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学びを支援し、児童が自分にできることを考え、進んで活動することができるようにする。
- 持続可能な社会をめざすために、自分たちが考えたこと、活動したことを地域に発信することができるようにする。

(3) 各学年の主な活動

- 1年：「すてきな よしの はる・なつ・あき・ふゆ」
- 2年：「はっけん！ よしののまちの よいところ」
- 3年：「人にやさしい 吉野の町」
- 4年：「命つながる 吉野小 生き生きビオトープ大作戦」
- 5年：「未来につながるまち 吉野小桜プロジェクト」
「有明海につながる白銀川・隈川の環境を守ろう」
- 6年：「つなごう吉野・大牟田の宝」

3 特徴的な活動事例

< 4年 生き生きビオトープ大作戦 >



(1) 目標

ビオトープの管理人として、自分たちにできることを考え、友達や地域の方々と協力しながら日本固有種を守り育てていく活動を通して、吉野小のビオトープを命の場所として守り育てていきたいという思いを持ち、先輩から受け継いだビオトープを誇りに思うとともに、生物多様性の意味やそのすばらしさを知ることができる。

(2) 実際の展開

- ①課題設定 ②ビオトープの生き物の調査 ③生き物を守り育てる活動
- ④未来につなげるための発信

(3) 子どもたちの様子

ビオトープ周辺の生き物に関心を持ち調べたり、育てたりした。生き物について調べたり、GTから話を聞いたりして、日本固有種を守ることはとても難しいことであり、大切なことであることを知り、どのようなことができるかを考え、行動することができた。本年度は、柿川先生や地域の方などのGTと一緒に黒メダカを守るために、水を抜いてかだやしをとり、ヘドロをとってビオトープの掃除を行った。

< 5年 未来につながるまち 吉野小桜プロジェクト >



(1) 目標

吉野小学校のシンボルである桜に対する先輩や地域の方々の思い・願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通したまちづくりについて考え、実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのについて考え、地域に貢献したいという思いを持つことができる。

(2) 実践の展開

- ①学習課題をつかむ。
- ②吉野の桜の歴史やそれに関わってこられた方々の思いや願いを調べる (写真2)。
- ③桜でつながる、吉野のまちづくりを実践する。
- ④桜プロジェクトと絆プロジェクトの活動をたくさんの人に発信する。

(3) 子どもたちの様子

桜の校章に込められた思いを当時の先生から受け取ったり、地域の方とこれからのまちづくりについて交流し、地域の方の思いに触れたりすることを通して、子どもたちは、プロジェクトへの思いを深めていくことができた。本年度は、コロナ禍の中、活動が延期になったり縮小したりしながらも、桜に肥料を入れたり、剪定を行ったりした。



写真2 絆プロジェクトの方との交流

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・桜やビオトープ等を対象とした実践的な活動を通して、友達や地域の方々と積極的に関わり、学校や地域の一員として、よりよい学校・地域づくりに参画する満足感を味わうことができたと考えられる。

○課題

- ・コロナ禍における活動の工夫と学校・保護者・地域との連携・協働のさらなる強化